

夕よはたなつてしすきとくされつらふと
ち残してさるん地し侍道ハ春のあつ田の
あつとるり河あふふ海とさなつと
よはにいなみ野のいなを新くといさ川
取もふのささく城平つけ侍と道の真
登も押もろくくあふの人の思ふんもろ
如くして汗教よ極なふるにさる侍

判者

日野一位大納言

右十五夜三首歌合以宗佐勝舉本授合

秋十又番歌合 永祿六年八月廿二日

題

秋花 秋恋 秋祝

作者

義後

義景

願生

宗因

立好

親秋

後世

吉仍

永純

判者

老法師

一番 秋花

二番 勝

義後

心とみはるまよの秋ハ咲花也花さうぬ登もさしはよき

三番 右

義宗

つぎはる花の登せれ神の志をきもくよ秋のさ

秋のたの秋元春秋のあさきひの古来優者をさ

秋のささよるあきひもくよかたぬさたるの花さうぬ

秋の登りすもくよかたぬさたるの花さうぬ

あきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

あきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

あきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

あきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

あきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

二番

九勝

頼生

あきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

あきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

あきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

左の秋花をよむと秋をのこさるる秋を
その右の秋花より之を貪着れんといへりこころ
おのれ事なきけりや梵細の二葉木と取戒のい
まゝめともや成侍らん左勝ぬへ

三番

左指

秋風は尾花をよむと整ふもいかにをよむとにほよとを
けし

右

ゆきほくもほけけけむほ花はみ種ありは秋整ふの夕雲
たか尾花をよむと整邊を濯錦によむとにほよとを

午の真ありをよむと秋をのこさるる秋を
云くこといへりめと紅葉萩の風ありはありは
山や右秋を種なきは秋花のみありはありは
秋のいおれせらるるやうにやよむとにほよとを

四番

左指

後世

あやういほ秋をよむといへりやまゝ葉花のまゝの秋のまゝあり
きり

右

親秋

つきてあやういほ秋をよむといへりやまゝ葉花のまゝの秋のまゝあり
あやういほ秋をよむといへりやまゝ葉花のまゝの秋のまゝあり

己なくみえふの右秋青二白厚しとの初縁也
分別かこやまなと云心よや是も指しやけ
く庵さ

五番

九勝

永純

あやふしあやふしやねむ花のえまやうまの村心いふ

右

右仍

小秋系うささまをせしあむく股はうす此すき家やわく後
たふ大うこ虫ハま根うとにある事さのとおもひ
したまは枝よとなく事眼あはハある事なすら

めつじくや右をうたせしとるしうも花すしこ

ハ濃淡の心りしあななききたるきくみよハささえ
きりの担うすむすこさふさうなまきとやありん
たさううよ海しとやよん

六番 秋意

九番

義系

菱路とふ月とこりかこつめおねもふら秋の秋はハ

右

俊世

秋ハ初おとへのゆあふをささふすれ神乃りのあ
た秋の菱月満屋梁たさる餘情あひいさ

きて感慨ぬりし右き就中腸断是秋天と吟
たつたる心せうのひてあはれきなりと左の秋のさよはあけ
かきうし仍心為勝

七番 *Handwritten text*

丸 左好

うたまにありひる元をかこころ思ひ秋のわさあし秋も

右 橋 義後

うき秋とありひあはる秋なすのさわわの心かあり

あめはうさ秋の心右秋今夜廊列月国中只獨者

かとりくると海あはるきさりし右為勝

八番 *Handwritten text*

丸 吉仍

秋いぬ小麻ははまにききあつたあはる神をよさめゆき

右 橋 親秋

あまや八人の心あはれ風あはれきなるよるはあはる

左麻をささくし志のあはる神をなげくよりと右身よ

さしと秋風のおもひはあはる人くや

九番 *Handwritten text*

丸 受阿 *Handwritten text*

あはれ心あはる秋の心はあはるを福よ

右勝

永純

雲井よりうねをまるとや飛鳥の海も月を神もおつらん
ひさびさの春よりとも鳥のあまのこひあつてあはれ右勝
なまのこひ月をとりて優めしと秀逸の趣あり
お勝ぬへー

十番

丸勝

宗因

月を月の神よりつとむるこゝろの海あやなむとあまのこひ
右
お勝ぬへー

大まはたをこゝろの神の上は秋ハ一丁の春あなをこゝろ

右下句頗平懐中たぶらふり

十番 秋祝

丸

俊世

木すきみる秋の夜ある中に一樹の松の子世とあを

右勝

吉仍

君のこひよこひは秋まこと秋の山子秋の世のあををこゝろ

右下句祝詞よをこゝろハ此うハあはれとあを

お勝ぬへー

十二番

丸勝

預生

お勝ぬへー

仙人のまじりたる葉を抄のまじりたるをぬきつる

右

永純

秋の葉は月を志す秋言抄は松あり後の君のよきひき

左 秋の心より右にまじり来り秋の葉は月名歌

まじりしは秋の葉と抄の心は左の葉とす

十三番

左

親秋

子世は秋を看し替へて秋の葉の後も葉のぬきたる松を

右

宗因

天は元めく秋月日を看せよかてては秋の葉を志す

左右の葉を

十四番

右

義宗

かう人の心は秋を志すは秋の葉の心より

右

立好

あさけの葉は秋の心より心志するは秋の葉の心より

左の人の心は秋を志すは秋の葉の心より

くく先聖先師の道なきは秋の葉の心より

術なきは秋の葉の心より秋の葉の心より

の心より秋の葉の心より秋の葉の心より

教を以て此判老の老法師すんも白頭時節
 見于戈と御らんもんたすくも物も物うく付り
 聖人の道にぬらうくる事を御尋らまの秘
 うひあらにぬらまの系をみへはたうくも付ら
 ありふ北題秋祝也釋奠ハ二月八月あ交あ季
 連款も也年中あ度の事をハ表にちらひる
 ありくハ時よのそきて秋款も連ハ結句を九まの
 秋といつ難なるるあり右ハ武をとちてゆか
 政道もあくるも道也へ文武ハ論とトあり
 あつたうにハ心也御の連ことと

十番

ぞ持

義俊

誰とゆつ世強いくもしをを新嘗とく秋とひて

右

光河

いく秋も秋津風より目とくしたさる御代よ御の御
 左以新嘗祝を年中右以駒込知治世共以可為

持

左

右

義俊 勝二持一

義景 勝二頁一

願生 勝二頁一

覺阿 持一頁二

卷之四十一

亥好持一頁二

俊世持一頁二

永純勝二頁一

宗因勝一持二

親秋勝一持二

吉仍勝一頁二

右の金代法賢心苑古字本校合年

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

後陽成院所合 文祿三年八月

題

虫 月 夜

一番

左 結

所制衣

初霜のうらみとてたる虫の聲をききまじりて綴りて

右

飛ぶる虫の心に思ふは又よあはれなる人の心

右の虫の心は初霜の心は思ふは思ふは思ふは思ふは

虫満ちたる心は思ふは思ふは思ふは思ふは思ふは

卷之四十一

四十一